

鳥取県県土整備部土木工事監督基準の手引き

平成 2 2 年 4 月

目 次

第1編 共通編

第1章 総則

第1節 総則

1-1-1-19	工事完成図	1
1-1-1-37	工事測量	1

第2章 土工

第3節 河川土工・海岸土工・砂防土工

1-2-3-2	掘削工	1
1-2-3-3	盛土工	1

第4節 道路土工

1-2-4-2	掘削工	1
1-2-4-3	路体盛土工	2
1-2-4-4	路床盛土工	2

第3章 無筋、鉄筋コンクリート

第7節 鉄筋工

1-3-7-4	組立て	2
---------	-----	---

第3編 土木工事共通編

第2章 一般施工

第3節 共通的工種

3-2-3-1	一般事項（道路改良、護岸工・流路工）	3
3-2-3-3	作業土工（床堀り、埋戻し）	3
3-2-3-4	矢板工（綱矢板）	3

第4節 基礎工

3-2-4-3	基礎工（護岸）	4
3-2-4-4	既製杭工	4
3-2-4-5	場所打杭工	5
3-2-4-6	深礎工	5

第6節 一般舗装工

3-2-6-5	アスファルト舗装工	6
3-2-6-6	コンクリート舗装工	6

第7節 地盤改良工

3-2-7-2	路床安定処理工	6
3-2-7-3	置換工	7
3-2-7-4	表層安定処理工	7
3-2-7-6	サンドマット工	7
3-2-7-7	バーチカルドレーン工	7
3-2-7-8	締固め改良工	7
3-2-7-9	固結工	8
3-2-10-8	地下水位低下工	8

第4編 河川編

第1章 築堤・護岸

法線	9
----	---

第3節 護岸基礎工

4-1-3-3	基礎工	9
---------	-----	---

第4節 矢板護岸工

4-1-4-4	矢板工	9
---------	-----	---

第5節 法覆護岸工

4-1-5-1	一般事項	9
---------	------	---

第6節 擁壁護岸工

4-1-6-3	場所打擁壁工	9
---------	--------	---

第7節 根固め工

4-1-7-3	根固めブロック工	9
---------	----------	---

第11節 光ケーブル配管工

4-1-11-3	配管工	10
----------	-----	----

第3章 樋門・樋管

第3節 樋門・樋管本体工

4-3-3-6	函渠工	10
---------	-----	----

4-3-3-7	翼壁工	10
---------	-----	----

第5節 水路工

4-3-5-5	暗渠工	10
---------	-----	----

第4章 水門

第8節 橋梁現場塗装工

4-4-8-2 現場塗装工	10
---------------	----

第5章 堰

第4節 可動堰本体工

4-5-4-8 床版工	10
4-5-4-9 堰柱工	11
4-5-4-10 門柱工	11
4-5-4-11 ゲート操作台工	11
4-5-4-12 水叩工	11
4-5-4-13 閘門工	11
4-5-4-14 土砂吐工	11

第5節 固定堰本体工

4-5-5-8 堰本体工	11
4-5-5-9 水叩工	11
4-5-5-10 土砂吐工	11

第6節 魚道工

4-5-6-3 魚道本体工	11
---------------	----

第7章 床止め・床固め

第3節 床止め工

4-7-3-6 本体工	11
-------------	----

第8章 河川維持

第7節 路面補修工

4-8-7-8 コンクリート舗装補修工	11
---------------------	----

第10節 光ケーブル配管工

4-8-10-3 配管工	11
--------------	----

第12節 植栽維持工

4-8-12-2 材料	11
-------------	----

第5編 河川海岸編

第1章 堤防・護岸

第3節 護岸基礎工

5-1-3-4	捨石工	12
5-1-3-5	場所打コンクリート工	12
5-1-3-6	海岸コンクリートブロック工	12
5-1-3-8	基礎工	12

第4節 護岸工

5-1-4-3	石積（張）工	12
5-1-4-4	海岸コンクリートブロック工	12

第5節 擁壁工

5-1-5-3	場所打擁壁工	12
---------	--------	----

第7節 波返工

5-1-7-3	波返工	12
---------	-----	----

第8節 裏法被覆工

5-1-8-2	石積（張）工	12
5-1-8-3	コンクリートブロック工	12

第2章 突堤・人工岬

第5節 根固め工

5-2-5-2	捨石工	13
5-2-5-3	根固めブロック工	13

第6節 消波工

5-2-6-2	捨石工	13
5-2-6-3	消波ブロック工	13

第3章 海域堤防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）

第3節 海域堤基礎工

5-3-3-3	捨石工	13
---------	-----	----

第4節 海域堤本体工

5-3-4-2	捨石工	13
5-3-4-3	海岸コンクリートブロック工	13

第6編 砂防編

第1章 砂防堰堤

法線	13
第3節 工場製作工	
6-1-3-5 工場塗装工	13
第6節 コンクリート堰堤工	
6-1-6-4 コンクリート堰堤本体工	13
6-1-6-5 コンクリート副堰堤工	13
6-1-6-6 コンクリート側壁工	13
6-1-6-8 水叩工	13
第7節 鋼製堰堤工	
6-1-7-5 鋼製堰堤本体工	13
6-1-7-6 鋼製側壁工	13
6-1-7-7 コンクリート側壁工	13
6-1-7-9 水叩工	13
6-1-7-10 現場塗装工	13
第8節 護床工・根固め工	
6-1-8-4 根固めブロック工	13
第2章 流路	
第3節 流路護岸工	
6-2-3-4 基礎工（護岸）	14
6-2-3-5 コンクリート擁壁工	14
第4節 床固め工	
6-2-4-4 床固め本体工	13
6-2-4-5 垂直壁工	13
6-2-4-6 側壁工	13
6-2-4-7 水叩工	13
6-2-4-8 魚道工	13
第5節 根固め・水制工	
6-2-5-4 根固めブロック工	13
第3章 斜面对策	
第3節 法面工	
6-3-3-7 抑止アンカー工	14
第4節 擁壁工	
6-3-4-4 場所打擁壁工	14
第8節 抑止杭工	

6-3-8-3	既製杭工	14
6-3-8-4	場所打杭工	14
6-3-8-5	シャフト工（深礎工）	14
6-3-8-6	合成杭工	14

第8編 道路編

第1章 道路改良

第5節 擁壁工

8-1-5-5	場所打擁壁工	15
---------	--------	----

第7節 カルバート工

8-1-7-6	場所打函渠工	15
---------	--------	----

第2章 舗装

第3節 舗装工

8-2-3-4	橋面防水工	15
8-2-3-5	アスファルト舗装工	15
8-2-3-6	半たわみ性舗装工	15
8-2-3-7	排水性舗装工	15
8-2-3-8	透水性舗装工	15
8-2-3-9	グースアスファルト舗装工	15
8-2-3-10	コンクリート舗装工	15
8-2-3-12	ブロック舗装工	15

第3章 橋梁下部

第4節 橋台工

8-3-4-8	橋台躯体工	15
---------	-------	----

第5節 R C橋脚工

8-3-5-9	橋脚躯体工	15
---------	-------	----

第4章 鋼橋上部

第3節 工場製作工

8-4-3-3	桁製作工	16
8-4-3-10	横断歩道橋製作工	16

第5節 橋梁現場塗装工

8-4-5-3	現場塗装工	16
---------	-------	----

第6節 床版工	
8-4-6-2 床版工	16

第5章 コンクリート橋上部

第3節 工場製作工	
8-5-3-2 プレビーム用桁製作工	16
第4節 PC 橋工	
8-5-4-3 ポストテンション桁製作工	16
8-5-4-5 プレキャストセグメント主桁組立工	16
8-5-4-9 床版・横組工	17
第5節 プレビーム桁橋工	
8-5-5-2 プレビーム桁製作工（現場）	17
第6節 PC ホロースラブ橋工	
8-5-6-4 PCホロースラブ製作工	17
第7節 RCホロースラブ橋工	
8-5-7-4 RC場所打ホロースラブ製作工	17
第8節 PC版桁橋工	
8-5-8-2 PC版桁製作工	17
第9節 PC箱桁橋工	
8-5-9-4 PC箱桁製作工	17
第10節 PC片持箱桁橋工	
8-5-10-2 PC片持箱桁製作工	17
第11節 PC押出し箱桁橋工	
8-5-11-2 PC押出し箱桁製作工	17

第6章 トンネル（NATM）

トンネル全般	17
第3節 トンネル掘削工	
8-6-3-2 掘削工	17
第4節 支保工	
8-6-4-3 吹付工	17
8-6-4-4 ロックボルト工	18
第5節 覆工	
8-6-5-3 覆工コンクリート工	18
8-6-5-4 側壁コンクリート工	18
第6節 インバート工	

8-6-6-4	インバート本体工	18
第8章 コンクリートシェッド		
第3節 プレキャストシェッド下部工		
8-8-3-6	受台工	18
第4節 プレキャストシェッド上部工		
8-8-4-6	横締め工	18
8-8-4-7	防水工	18
第5節 RCシェッド工		
8-8-5-6	躯体工	18
第9章 鋼製シェッド		
第4節 鋼製シェッド下部工		
8-9-4-6	受台工	18
第5節 鋼製シェッド上部工		
8-9-5-4	現場継手工	18
8-9-5-5	現場塗装工	18
8-9-5-7	防水工	18
第13章 電線共同溝		
第5節 電線共同溝工		
8-13-5-4	現場打ボックス工（特殊部）	18
第15章 道路維持		
第4節 舗装工		
8-15-4-7	路上再生工	19
8-15-4-10	アスファルト舗装補修工	19
第20節 植栽維持工		
8-15-20-3	樹木・芝生管理工	19
第17章 道路修繕		
第4節 舗装工		
8-17-4-4	舗装打換え工	19
8-17-4-6	オーバーレイ工	19
第17節 橋梁床版工		
8-17-17-1	一般事項	19

第9編 公園緑地編

第1章 総則

第4節 敷地造成工

9-1-4-4 掘削工20

9-1-4-5 盛土工20

9-1-4-6 路床盛土工20

9-1-4-9 路床安定処理工20

第7節 公園カルバート工

9-1-7-4 場所打函渠工20

第 1 編 共通編

第 1 章 総則

第 1 節 総則

1-1-1-19 : 工事完成図（出来形測量）

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
工 事 完 成 時	1-1-1-19	・測量結果	・測量結果を工事出来形図と対比して現地で確認する。 必須測定項目（必ず測定又は確認） ・横断（幅、高さ）、用地境界 任意測定項目（工事目的物に応じて測定又は確認） ・測量標（BM、基準点）、工事に用多角点、中心線等	段階確認書	確認	一般:10%（延長 200m 以下の場合 は 2 箇所） 重点:30%	

1-1-1-37 : 工事測量

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
工 事 着 手 前	1-1-1-37	・測量結果	・測量結果を測量成果品と対比して現地で確認する。 必須測定項目（必ず測定又は確認） ・測量標（仮 BM） 任意測定項目（工事目的物に応じて測定又は確認） ・測量標（基準点）、工事に用多角点の設置、用地境界 中心線、縦断、横断等	段階確認書	確認	1 回/1 工事	

第 2 章 土工

第 3 節 河川土工・海岸土工・砂防土工

1-2-3-2 : 掘削工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
土（岩）の 変 化 し た 時	1-2-3-2	・土（岩）質 変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書	確認	1 回/土（岩）質の変 化毎	

1-2-3-3 : 盛土工（河川、海岸、砂防）

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
敷均し、転 圧時	1-2-3-3	使用材料、敷 均し、締固め 状況	・土の敷ならし及び締固めについて、使用材料、敷 均し厚さ・方向、施工機種について把握する。		把握	一般：1 回/1 工事 重点：2 ～ 3 回/1 工 事	

第 4 節 道路土工

1-2-4-2 : 掘削工 1－2－3－2 と同じ

1-2-4-3 : 路体盛土工（道路土工）

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
敷均し、転圧時	1-2-4-3	使用材料、敷均し、締固め状況	・土の敷ならし及び締固めについて、敷均し厚・方向、施工機種について把握する。		把握	一般：1回/1工事 重点：2～3回/1工事	

1-2-4-4 : 路床盛土工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
敷均し、転圧時	1-2-4-4	使用材料、敷均し、締固め状況	・土の敷ならし及び締固めについて、敷ならし厚・方向、施工機種について把握する。		把握	一般：1回/1工事 重点：2～3回/1工事	
ブルドーリング実施時		・ブルドーリング実施状況	・路床盛土仕上後、路床全体にわたっての、ブルドーリング実施時のたわみについて状況を確認する。	段階確認書	確認	1回/1工事	

第3章 無筋、鉄筋コンクリート

第7節 鉄筋工

1-3-7-4 : 組立て

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
鉄 筋 組 立 て完了時	1-3-7-4	・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	段階確認書	確認	各構造物の鉄筋組立完了時確認頻度毎に1回	
			・鉄筋の本数を管理資料で確認する。	段階確認書	確認	各構造物の鉄筋組立完了時確認頻度毎に1本	
			・鉄筋の径、長さを部材の種類毎に現地で測定して確認する。	段階確認書	確認	各構造物の鉄筋組立完了時確認頻度毎に 一般：1箇所 重点：2箇所	
			・鉄筋のかぶりを保ち、本体コンクリートと同等以上の品質を有するスペーサーを使用しているか側面、底面毎に確認する。	段階確認書	確認	各構造物の鉄筋組立完了時確認頻度毎に1回	
			・継手の位置を現地で目視して確認する。	段階確認書	確認	各構造物の鉄筋組立完了時確認頻度毎に1回	
			・鉄筋の固定方法がコンクリートの打込みに際し、変形・移動の恐れがないか現地で目視して確認する。	段階確認書	確認	各構造物の鉄筋組立完了時確認頻度毎に1回	
			・継ぎ手の長さが設計書どおりであるか加工形状毎に現地で測定して確認する。	段階確認書	確認	各構造物の鉄筋組立完了時確認頻度毎に 一般：1箇所 重点：2箇所	
			・鉄筋の間隔が許容誤差範囲であるか加工形状毎に2 mの範囲を現地で測定して確認する。	段階確認書	確認	1径間当り3断面（両端及び中央） その他端面変化毎	
			・床版工において、鉄筋の有効高さが許容誤差範囲であるか現地で測定して確認する。	段階確認書	確認	品質管理点数のうち 一般：30％ 重点：60％	
			・ガス圧接において、超音波探傷検査により規格値以内か現地で試験して確認する。	段階確認書	確認		

第3編 土木工事共通編

第2章 一般施工

第3節 共通的工種

3-2-3-1 一般事項（道路改良）

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
施工時	3-2-3-1	幅 W ₁ 幅 W ₂ 幅 W ₃	・ 監督員は幅が規格値以内であるか確認する。	段階確認書	確認	一般:10%（延長 200m以下 の場合は 2箇所） 重点:30%	

3-2-3-1 一般事項（護岸工・流路工）

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
施工時	3-2-3-1	幅 W ₁ 幅 W ₂	・ 監督員は幅が規格値以内であるか確認する。	段階確認書	確認	一般:10%（延長 200m以下 の場合は 2箇所） 重点:30%	

3-2-3-3 作業土工（床掘り、埋戻し）（重要構造物）

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
土（岩）質 の 変 化 し た 時	3-2-3-3	・ 土（岩）質 変化位置	・ 監督員は土及び岩の契約分類毎に地質境界を確認する。	段階確認書	確認	1回/土（岩）質 の変化毎	
床 掘 掘 削 完了時		・ 支持地盤 （直接基礎）	・ 監督員は床掘完了時に、掘削深さ（基準高）を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験等（試験費用は別途計上）の試験結果で確認する。	段階確認書	確認	1回/1 構造物	
埋戻し前 （本手引き未掲載 の構造物に適用）		・ 設計図書と 対比（不可視 部分の出来 形）	・ 構造物の不可視部分について、埋戻し前に設計図書（座標位置、基準高、寸法のうち監督員の指示する箇所）と現地で対比し規格値以内であるか確認する。	段階確認書	確認	1回/1 構造物	

3-2-3-4 矢板工（鋼矢板） 仮設を除く

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
打込時	3-2-3-4	・ 使用材料、 長さ、溶接部の 適否	・ 材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・ 打設前に板長を測定し、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較する。 ・ 継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験(JIS Z 2343)、放射線透過試験(JIS Z 3104)又は超音波探傷試験(JIS Z 3060)により確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/150 枚 重点：1回/100 枚	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時		基準高、変位	・ 基準高、変位が規格値以内であるか確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/150 枚 重点：1回/100 枚	

第4節 基礎工

3-2-4-3 : 基礎工（護岸）

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
設置完了時	3-2-4-3	・設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・不可視部分について埋戻し前に設計図書と現地で対比し規格値以内であるか確認する。 必須測定項目（必ず測定又は確認） ・基準高、幅、高さ、延長 任意測定項目（工事目的物に応じて測定又は確認） ・その他図面の寸法表示箇所	段階確認書	確認	1回/1工事	

3-2-4-4 : 既製杭工（既製コンクリート杭、鋼管杭、H 鋼杭）

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
打込時	3-2-4-4	・使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・打設前に杭長を測定し、打設後、杭天端高、切断部の長さを測定し、杭長、打設長（根入れ長）を算出し設計根入れ長と比較し確認する。 ・継手溶接部の適否について目視、浸透探傷試験(JIS Z 2343)、放射線透過試験(JIS Z 3104)又は超音波探傷試験(JIS Z 3060)により確認する。 ・貫入状況、打ち止まり状況等から支持層を確認するとともに、支持力を算定し設計支持力と比較し確認する。 ・基準高、変位が規格値以内であるか確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/10本 重点：1回/5本	溶接部の試験方法は特記仕様書に示された方法による。
打込完了時（打込杭）		・基準高、偏心量	・基準高、変位が規格値以内であるか確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/10本 重点：1回/5本	ただし、1回/1構造物以上とする。
掘削完了（中掘杭）		・掘削長さ、杭の先端土質	・掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/10本 重点：1回/5本	ただし、1回/1構造物以上とする。
施工完了時（打込杭）		・基準高、偏心量	・基準高、偏心量が規格値以内であるか確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/10本 重点：1回/5本	ただし、1回/1構造物以上とする。
杭頭処理完了時		・杭頭処理状況	・鋼管杭、H 鋼杭 鉄筋溶接の適否、杭頭切断の処理について施工状況を確認する。 ・コンクリート杭 杭を切断した場合の補強方法、中詰補強の配金等の杭頭処理状況を確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/10本 重点：1回/5本	ただし、1回/1構造物以上とする。

3-2-4-5 ： 場所打杭工（リバース杭、ホールケーシング杭、アースドリル杭、大口径杭）

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
掘 削 完 了 時	3-2-4-5	・掘削、長さ 支持地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較し確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/10本 重点：1回/5本	
鉄 筋 組 立 完了時		・使用材料、 設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/10本 重点：1回/5本 1-3-7-4 参照のこと	
コンクリート打設時		・品質規格、 運搬時間、打設順序、天候 気温	・コンクリートの品質規格、運搬時間、打設順序、打設時の天候及び気温等について把握する。		把握	一般：1回/10本 重点：1回/5本	
施 工 完 了 時		・基準高、偏心量、杭径	・基準高、偏心量、杭径が規格値以内であるか確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/10本 重点：1回/5本	
杭 頭 処 理 完了時		・杭頭処理状況	・杭頭部コンクリートの品質及び仕上げの状況、帯鉄筋の径、本数、間隔及び定着長について確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/10本 重点：1回/5本	

3-2-4-6 ： 深礎工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
土（岩）質 の 変 化 した時	3-2-4-6	・土（岩）質 変化位置	・監督員は土及び岩の契約分類毎に、ボーリング柱状図等と比較し、地質境界線を確認する。	段階確認書	確認	1回/土（岩）質 の変化毎	ただし、1回/1構造物以上とする。
掘 削 完 了 時		・長さ、支持 地盤	・杭の掘削完了時、掘削土により地層・地質及び杭先端支持地盤を、ボーリング柱状図等と比較して確認する。 ・杭の長さを現地で確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/3本 重点：全数	
鉄 筋 組 立 完了時		・使用材料、 設 計 図 書 との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書	確認	1回/1本 1-3-7-4 参照のこと	
施 工 完 了 時		・基準高、偏心量、径	・基準高、偏心量、径が規格値以内であるか確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/3本 重点：全数	
グ ラ ウ ト 注入時		・使用材料、 使用量	・注入モルタルの配合及び記録計等により使用量を確認する。 ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する	段階確認書	確認	一般：1回/3本 重点：全数	

第6節 一般舗装工

3-2-6-5 : アスファルト舗装

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
舗装前	3-2-6-5	・使用材料	・材料試験結果により材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用するか把握する。		把握	1回/1工事	
舗装時		・敷均し、締め固め状況、天候、気温、舗設温度等	・下層、上層路盤（粒調路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締め固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石炭安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石炭量、一軸圧縮試験結果等について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、締め固め状況について把握する。		把握	一般：1回/1工事 重点：1回/3000 m ²	

3-2-6-6 : コンクリート舗装工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
舗装前	3-2-6-6	・使用材料	・材料試験結果により材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか把握する。		把握	1回/1工事	
舗設時		・敷均し、締め固め状況、天候、気温、舗設温度等	・下層、上層路盤（粒調路盤） 路盤材料の品質及び仕様書に定められた敷き均し、締め固めが、行われているか把握する。 ・下層、上層路盤（セメント及び石炭安定処理） 使用材料の品質、1層の仕上がり厚さ、セメント及び石炭量、一軸圧縮試験結果について把握する。 ・アスファルト安定処理、基層、表層 プライムコート、タックコートの施工状況、混合物の舗設温度、天候、敷均し、締め固め状況について把握する ・コンクリート舗装 目地金物、鉄網の設置及び敷均し、締め固め状況について把握する。		把握	一般：1回/1工事 重点：1回/3000 m ²	

第7節 地盤改良工

3-2-7-2 : 路床安定処理工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
処理完了時	3-2-7-2	・使用材料、基準高、幅、延長、施工厚	・幅、施工厚さ及び長さを確認する。 ・伝票などにより処理材料の使用量を確認し、設計数量と比較する。	段階確認書	確認	一般：1回/1構造物 重点：1回/120m	

3-2-7-3　：　置換工

施工段階	仕様書との関係	内　　　　　　容		提　出　書　類	監　　　　督		備　　　　考
		項　　　目	留　　　意　　　事　　　項		方法	頻　　　度	
置換前	3-2-7-3	使用材料	・材料試験における土の突固め試験（道路の場合はC B R試験も）結果表により材料の確認を行う。	段階確認書	確認	1回/1工事	
施工時		使用材料	・使用材料は品質、形状、寸法、使用法を目視で確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/1構造物 重点：1回/120m	
施工後		幅、延長、置換厚さ、支持地盤	・厚さ、幅、延長及び地盤支持力を測量や目視、必要により平板載荷試験により確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/1構造物 重点：1回/120m	

3-2-7-4　：　表層安定処理工（表層混合処理）　　　　　3－2－7－2に同じ

3-2-7-4　：　表層安定処理工（置換）

施工段階	仕様書との関係	内　　　　　　容		提　出　書　類	監　　　　督		備　　　　考
		項　　　目	留　　　意　　　事　　　項		方法	頻　　　度	
掘削完了時	3-2-7-4	・使用材料、幅、延長、施工厚さ	・使用材料は品質、形状、寸法、使用法を目視で確認する。 ・幅、長さ、及び置換厚さについて規格値以内であるか確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/1工事 重点：1回/120m	

3-2-7-6　：　サンドマット工　　　　　3－2－7－4（置換）に同じ

3-2-7-7　：　バーチカルドレーン工（サトﾞドレーン、袋詰式サトﾞドレーン、ペーパードレーン）

施工段階	仕様書との関係	内　　　　　　容		提　出　書　類	監　　　　督		備　　　　考
		項　　　目	留　　　意　　　事　　　項		方法	頻　　　度	
施工時	3-2-7-7	・使用材料、打込長さ	・使用材料は品質（特に粒度）及び長さについて確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/200本 重点：1回/100本	ただし、1回/1構造物以上とする。
施工完了時		・基準高、施工位置	・基準高、設置間隔が規格値以内であるか確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/200本 重点：1回/100本	ただし、1回/1構造物以上とする。

3-2-7-8　：　締固め改良工（サトﾞコンパクションパイル）

施工段階	仕様書との関係	内　　　　　　容		提　出　書　類	監　　　　督		備　　　　考
		項　　　目	留　　　意　　　事　　　項		方法	頻　　　度	
施工時	3-2-7-8	・使用材料、打込長さ	・砂杭の施工管理記録により砂杭の打込長さを確認する。 ・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用し	段階確認書	確認	一般：1回/200本 重点：1回/100本	ただし、1回/1構造物以上とする。
施工完了時		・基準高、施工位置、杭径	・砂杭の基準高、設置間隔、杭径が規格値以内か確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/200本 重点：1回/100本	ただし、1回/1構造物以上とする。

3-2-7-9 ： 固結工（粒体噴射攪拌、高圧噴射攪拌、スラリー攪拌、生石灰^{パイル}）

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
施工前	3-2-7-9	・使用材料	・攪拌及び注入する材料について、配合試験と一軸圧縮試験の結果により目標強度に達しているか確認する。	段階確認書	確認	1回/1工事	ただし、1回/1構造物以上とする。 ただし、1回/1構造物以上とする。
施工時		・深度	・施工管理記録により杭の打込長さを確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/200本 重点：1回/100本	
施 工 完 了 時		・基準高、施工位置、杭径	・杭の基準高、位置・間隔、杭径が規格値以内か確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/200本 重点：1回/100本	

3-2-7-9 ： 固結工（薬液注入）

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
施工前	3-2-7-9	・使用材料	・攪拌及び注入する材料について、配合試験と一軸圧縮試験の結果により目標強度に達しているか確認する。	段階確認書	確認	1回/1工事	ただし、1回/1構造物以上とする。
施工時		・深度、注入量	注入量を確認するとともに、薬液の保管、注入作業管理、排水等処理、周辺の地下水・地盤の状況の測定・監視をしながら施工しているかを確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/20本 重点：1回/10本	

3-2-10-8 ： 地下水位低下工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
施工前	3-2-10-8	地質、地下水位、透水係数、湧水量等	・掘削完了後、現地で目視により地質（透水係数）、地下水位、湧水量等を設計図書と比較し確認する。	段階確認書	確認	1回/1工事	

第4編 河川編

第1章 築堤・護岸

法 線

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
法 線 設 置 完了時		・法線設置状況	・法線の位置・方向について設計図書と対比し現地で確認する。	段階確認書	確認	1回/1法線	

第3節 護岸基礎工

4-1-3-3 : 基礎工 3-2-4-3に同じ。

第4節 矢板護岸工

4-1-4-4 : 矢板工 3-2-3-4に同じ

第5節 法覆護岸工

4-1-5-1 : 一般事項

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
覆土前	4-1-5-1	・設計図書との対比（不可視部分の出来形）	・不可視部分について、覆土前に設計図書と現地で対比し規格値以内か確認する。 必須測定項目：基準高、法長、延長 任意測定項目：その他図面の寸法表示箇所	段階確認書	確認	1回/1工事	

第6節 擁壁護岸工

4-1-6-3 : 場所打擁壁工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
土（岩）質 の 変 化 した時	4-1-6-3	・土（岩）質 変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書	確認	1回/土（岩）質の変化毎	
床 掘 削 完了時		・支持地盤（直接基礎）	・監督員は床掘完了時に、掘削深さ（基準高）を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験（試験費用は別途計上）の試験結果で確認する。	段階確認書	確認	1回/1 構造物	
鉄 筋 組 立 完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書	確認	1回/1 ヲット 1-3-7-4 参照のこと	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。		把握	一般：1回/1 構造物 重要：1回/1 ヲット	
躯体完了時		・設計図書との対比	・管理資料を設計図書と対比し規格値以内か確認する。 必須測定項目（必ず測定又は確認） ・座標位置、基準高、フチン ^g 厚さ・幅、 天端幅、高さ、延長 任意測定項目(工事目的物に応じ測定又は確認) ・その他図面の寸法表示箇所	段階確認書	確認	1回/1 構造物	

第7節 根固め工

4-1-7-3 : 根固めブロック工 3-2-4-3に同じ【必須測定項目：基準高、厚さ、幅、延長】

第 1 1 節 光ケーブル配管工

4-1-11-3 配管工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
施工前	4-1-11-3	・使用材料	・使用承諾（品質、規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。	段階確認書	確認	1回/1工事	
施工時		・接続状況	・透過試験により管路が完全に接続されているか確認する。	段階確認書	確認	一般:10% 重点:30%	

第 3 章 樋門・樋管

第 3 節 樋門・樋管本体工

4-3-3-6 函渠工

4－1－6－3に同じ【必須測定項目：基準高、延長、内空幅、内空高

任意測定項目：厚さ（ $t_1 \sim t_8$ ）、幅（ w_1 、 w_2 ）、その他図面の寸法表示箇所】

4-3-3-7 翼壁工

4－1－6－3に同じ【必須測定項目：基準高、厚さ、幅、高さ、延長

任意測定項目：その他図面の寸法標示箇所】

第 5 節 水路工

4-3-5-5 暗渠工

3－2－4－3に同じ【必須測定項目：基準高、延長

任意測定項目：幅（ w_1 、 w_2 ）、深さ】

第 4 章 水門

第 6 節 付帯物設置工

4-3-5-5 暗渠工

4－1－10－2に同じ

第 8 節 橋梁現場塗装工

4-4-8-2 現場塗装工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
清掃・錆落とし施工時	4-4-8-2	・清掃・錆落とし状況	・清掃、錆落とし状況を把握する。		把握	1回/1工事	
施工時		・使用材料、天候、気温	・塗料缶の数量及び製造年月日（有効期限）、天候と気温が施工に適しているか把握する。		把握	1回/1工事	

第 5 章 堰

第 4 節 可動堰本体工

4-5-4-8 床版工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
鉄筋組み立て完了時	4-5-4-8	・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているかを確認する。	段階確認書	確認	一般：30%/1構造物 重点：60%/1構造物	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。		把握	一般：1回/1構造物 重点：1回/1ロット	

4-5-4-9：堰柱工

4-5-4-10：門柱工

4-5-4-11：ゲート操作台工

4-5-4-12：水叩工

4-5-4-13：閘門工

4-5-4-14：土砂吐工

第5節 固定堰本体工

4-5-5-8：堰本体工

4-5-5-9：水叩工

4-5-5-10：土砂吐工

4-1-6-3に同じ【必須測定項目：基準高、高さ、延長
任意測定項目：その他図面の寸法表示箇所】

第6節 魚道工

4-5-6-3：魚道本体工

4-1-6-3に同じ【必須測定項目：基準高、厚さ（t₁、t₂）、幅、高さ（h₁、h₂）、延長
任意測定項目：その他図面の寸法表示箇所】

第18節 付帯物設置工

4-5-18-4：境界工

4-1-10-2に同じ

第7章 床止め・床固め

第3節 床止め工

4-7-3-6：本体工（床固め本体工）

4-1-6-3に同じ【必須測定項目：基準高（天端・水通し・堤底）、天端幅、堤幅、堤長、
水通し幅
任意測定項目：その他基準高、図面の寸法表示箇所】

第8章 河川維持

第7節 路面補修工

4-8-7-8：コンクリート舗装補修工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
施工前	4-8-7-8	使用材料、使用量	・アスファルト注入材料の使用量を質量検収により確認する。	段階確認書	確認	1回/1工事	

第10節 光ケーブル配管工

4-8-10-3：配管工

4-1-11-3に同じ

第12節 植栽維持工

4-8-12-2：材料

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
現場搬入時	4-8-12-2	使用材料	・材料確認（品質、規格）を受けた材料が搬入されているか確認する。	段階確認書	確認	1回/1工事	

第5編 河川海岸編

第1章 堤防・護岸

第3節 護岸基礎工

5-1-3-4	： 捨石工	3－2－4－3に同じ【必須測定項目：基準高、天端幅、天端延長 任意測定項目：法長】
5-1-3-5	： 場所打コンクリート工	3－2－4－3に同じ【必須測定項目：基準高、幅、高さ、延長】
5-1-3-6	： 海岸コンクリートブロック工	3－2－4－3に同じ【必須測定項目：基準高、ブロック厚、ブロック縦・横幅、 延長】
5-1-3-8	： 基礎工	3－2－4－3に同じ【必須測定項目：基準高、幅、高さ、延長】

第4節 護岸工

5-1-4-3	： 石積(張)工	3－2－4－3に同じ【必須測定項目：基準高、延長 任意測定項目：法長、厚さ（ブロック・裏込）】
5-1-4-4	： 海岸コンクリートブロック工	3－2－4－3に同じ【必須測定項目：基準高、延長 任意測定項目：法長、厚さ】

第5節 擁壁工

5-1-5-3	： 場所打擁壁工	4－1－6－3に同じ
---------	----------	------------

第7節 波返工

5-1-7-3	： 波返工	4－1－6－3に同じ【必須測定項目：基準高、幅（ w_1 、 w_2 ）、高さ（ h_1 、 h_2 、 h_3 ）、延長】
---------	-------	--

第8節 裏法被覆工

5-1-8-2	： 石積（張）工	3－2－4－3に同じ【必須測定項目：基準高、法長、延長 任意測定項目：厚さ（ブロック、裏込）】
5-1-8-3	： コンクリートブロック工	3－2－4－3に同じ【必須測定項目：基準高、法長、延長 任意測定項目：厚さ（ブロック、裏込）】

第2章 突堤・人工岬

第5節 根固め工

5-2-5-2	： 捨石工	3－2－4－3に同じ【必須測定項目：基準高、天端幅、天端延長 任意測定項目：法長】
5-2-5-3	： 根固めブロック工	3－2－4－3に同じ【必須測定項目：基準高、厚さ、幅 任意測定項目：延長】

第6節 消波工

5-2-6-2	： 捨石工	3－2－4－3に同じ【必須測定項目：基準高、天端幅、天端延長 任意測定項目：法長】
5-2-6-3	： 消波ブロック工	3－2－4－3に同じ【必須測定項目：基準高、厚さ、幅 任意測定項目：延長】

第3章 海域堤防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）

第3節 海域堤基礎工

5-3-3-3	： 捨石工	3－2－4－3に同じ【必須測定項目：基準高、天端幅、天端延長 任意測定項目：法長】
---------	-------	--

第4節 海域堤本体工

5-3-4-2	： 捨石工	3－2－4－3に同じ【必須測定項目：基準高、天端幅、天端延長 任意測定項目：法長】
5-3-4-3	： 海岸コンクリートブロック工	3－2－4－3に同じ【必須測定項目：基準高、天端幅、天端延長】

第6編 砂防編

第1章 砂防堰堤
法 線

施工段階	仕様書と の関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
法 線 設 置 完了時		・法線設置状 況	・法線及びダム軸の位置・方向について設計図書と 対比し現地で確認する。	段階確認書	確認	1回/1法線	

第3節 工場製作工

6-1-3-5 : 工場塗装工 4－4－8－2に同じ

第6節 コンクリート堰堤工

6-1-6-4 : コンクリート堰堤本体工 4－1－6－3に同じ【必須測定項目：基準高（天端・水通し・堤底）、天端幅、堤幅、
水通し幅、堤長
任意測定項目：その他基準高、図面の寸法表示箇所】

6-1-6-5 : コンクリート副堰堤工 6－1－6－4に同じ

6-1-6-6 : コンクリート側壁工 4－1－6－3に同じ【必須測定項目：基準高、幅（ w_1, w_2 ）、長さ
任意測定項目：その他図面の寸法表示箇所】

6-1-6-8 : 水叩工 4－1－6－3に同じ【必須測定項目：基準高、幅 任意測定項目：厚さ、延長】

第7節 鋼製堰堤工

6-1-7-5 : 鋼製堰堤本体工（コンクリートに関する部分） 6－1－6－4に同じ

6-1-7-6 : 鋼製側壁工（コンクリートに関する部分） 6－1－6－6に同じ

6-1-7-7 : コンクリート側壁工 6－1－6－6に同じ

6-1-7-9 : 水叩工 6－1－6－8に同じ

6-1-7-10 : 現場塗装工 4－4－8－2に同じ

第8節 護床工・根固め工

6-1-8-4 : 根固めブロック工 4－1－7－3に同じ

第2章 流路

第3節 流路護岸工

6-2-3-4 : 基礎工（護岸） 3－2－4－3に同じ

6-2-3-5 : コンクリート擁壁工 4－1－6－3に同じ

6-2-3-9 : 植生工 3－2－3－6に同じ

第4節 床固め工

6-2-4-4 : 床固め本体工 6－1－6－4に同じ

6-2-4-5 : 垂直壁工 6－1－6－4に同じ

6-2-4-6 : 側壁工 6－1－6－6に同じ

6-2-4-7 : 水叩工 6－1－6－8に同じ

6-2-4-8 : 魚道工 4－5－6－3に同じ

第5節 根固め・水制工

6-2-5-4 : 根固めブロック工 4－1－7－3に同じ

第3章 斜面对策

第3節 法面工

6-3-3-7 ： 抑止アンカー工（グラントアンカー）

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
削孔時	6-3-3-7	・土（岩）質 変化位置、定 着岩質等の 確認	・土及び岩の変化位置を、ボーリング柱状図等と比較して定着長を確認する。	段階確認書	確認	1回/土（岩）質の変化毎	
削 孔 完 了 時		・長さ、支持 地盤	・孔の掘削完了時、削孔径、長さを現地で確認する。 ・削孔の角度、位置について確認する。	段階確認書	確認	一般：1回/10本 重点：1回/5本	ただし、1回/1構造物以上とする。
緊張時		・グラウトの 強度 ・緊張力、定 着力、	・供試体によりグラウトが所定の強度に達しているか把握する。 緊張時の施工状況を確認する。 ① 計画最大試験荷重に対する強度、荷重—変位置量特性との整合性を確認する。 ② 定着荷重、定着方法を確認する。 ③ 支圧版、台座の強度を確認する。 ④ 緊張装置は、キャリブレーションを行っているか確認する。	段階確認書	把握 確認	一般：1回/10本 重点：1回/5本 一般：1回/10本 重点：1回/5本	ただし、1回/1構造物以上とする。 ただし、1回/1構造物以上とする。

第4節 擁壁工

6-3-4-4 ： 場所打擁壁工 4－1－6－3に同じ

第8節

抑止杭工

6-3-8-3 ： 既製杭工 3－2－4－4に同じ

6-3-8-4 ： 場所打杭工 3－2－4－5に同じ

6-3-8-5 ： シャフト（深礎工） 3－2－4－6に同じ

6-3-8-6 ： 合成杭工 3－2－4－4に同じ

第8編 道路編

1章 道路改良

第5節 擁壁工

8-1-5-5： 場所打擁壁工 4－1－6－3に同じ

第7節 カルバート工

8-1-7-6： 場所打函渠工 4－1－6－3に同じ【必須測定項目：基準高、厚さ（t₁～t₄）、幅（内法）、高さh、延長
任意測定項目：その他図面の寸法表示箇所】

第2章 舗装

第3節 舗装工

8-2-3-4： 橋面防水工
8-2-3-5： アスファルト舗装工
8-2-3-6： 半たわみ性舗装工
8-2-3-7： 排水性舗装工
8-2-3-8： 透水性舗装工
8-2-3-9： グースアスファルト舗装工
8-2-3-10： コンクリート舗装工
8-2-3-12： ブロック舗装工

3－2－6－5に同じ

3－2－6－6に同じ

3－2－6－5に同じ

第3章 橋梁下部

第4節 橋台工

8-3-4-8： 橋台躯体工

施工段階	仕様書	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
	との関係	項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
土（岩）質の変化した時	8-3-4-8	・土（岩）質変化位置	・土及び岩の契約分類毎に地質境界線を確認する。	段階確認書	確認	1回/土（岩）質の変化毎	
床堀掘削完了時		・支持地盤（直接基礎）	・監督員は床掘完了時に、掘削深さ（基準高）を測量し、支持地盤の適否を柱状図等の設計図書と照合して確認する。また、必要に応じて平板載荷試験（試験費用は別途計上）の試験結果で確認する。	段階確認書	確認	1回/1構造物	
鉄筋組立て完了時		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継手方法（継手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書	確認	1回/1ロット 1-3-7-4参照のこと	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。		把握	一般：1回/1構造物 重点：1回/1ロット	
躯体完了時		・設計図書との対比	設計図書と現地で対比し規格値以内か確認する。 必須測定項目（必ず測定又は確認） ・躯体座標位置、橋座基準高、橋壁間距離、天端幅、敷幅、高さ、天端長、敷長、フーチング厚 任意測定項目（工事目的物に応じ測定又は確認） ・中心線変位、翼壁厚さ、翼壁長さ、その他図面の寸法表示箇所	段階確認書	確認	1回/1構造物	
沓座の位置決定時		・沓座の位置	・前後の下部工沓座との相互関係及び沓座の高さ等について確認する。	段階確認書	確認	1回/1構造物	

第5節 R C橋脚工

8-3-5-9： 橋脚躯体工 8－3－4－8に同じ【必須測定項目：躯体座標位置、天端基準高、フーチング厚さ、天端幅、敷幅、高さ、天端長、敷長、橋脚中心間距離
任意測定項目：中心線の変位、その他図面の寸法表示箇所】

第4章 鋼橋上部
第3節 工場製作工
8-4-3-3 ： 桁製作工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
仮組立完了時（仮組立てが省略となる場合は除く）	8-4-3-3	仮組立精度	仮組立精度について、現地で確認する。 必須測定項目（必ず測定又は確認） ・全長、支間長、主構の組立高さ 任意測定項目（工事目的物に応じ測定又は確認） ・（主桁、主構）の中心間距離・通り・そり・橋端における出入差・鉛直度、現場継手部の隙間	段階確認書	確認	1回/1構造物	

8-4-3-10 ： 横断歩道橋製作工 8－4－3－3に同じ

第5節 橋梁現場塗装工
8-4-5-3 ： 現場塗装工 4－4－8－2に同じ

第6節 床版工
8-4-6-2 ： 床版工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
鉄筋組み立て完了時	8-4-6-2	・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているかを確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、有効高さ、間隔、継手方法（継手長結束状況）、かぶり及び床版厚について現地で確認する。	段階確認書	確認	1回/1構造物 1-3-7-4 参照のこと	
コンクリート打設時		・品質規格、運搬時間、打設順序、天候気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温等について把握する。		把握	一般：1回/1構造物 重点：1回/1ロット	

第4章 コンクリート橋上部
第3節 工場製作工
8-5-3-2 ： プレベーム用桁製作工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
プレストレス導入時、横締め作業時	8-5-3-2	・設計図書との対比	・プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する ・緊張管理計画書 ①引張装置のキャリブレーション結果 ②PC鋼材のプレストレスの管理に用いる摩擦係数 ③PC鋼材の見かけのヤング係数	段階確認書	確認	一般：5％程度 ／総ケーブル数 重点：10％程度 ／総ケーブル数	
プレストレス導入時、縦締め作業時		・設計図書との対比	・プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する ・緊張管理計画書 ①引張装置のキャリブレーション結果 ②PC鋼材のプレストレスの管理に用いる摩擦係数	段階確認書	確認	一般：10％ ／総ケーブル数 重点：20％程度 ／総ケーブル数	
PC鋼線鉄筋組立完了時（工場製作を除く）		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、間隔、継ぎ手方法（継ぎ手長結束状況）及びかぶりについて現地で確認する。	段階確認書	確認	1回/1構造物 1-3-7-4 参照のこと	

第4節 PC橋工
8-5-4-3 ： ポストテンション桁製作工 8－5－3－2に同じ
8-5-4-5 ： プレキャストセグメント主桁組立工 8－5－3－2に同じ

8-5-4-9 : 床版・横組工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
コンクリート打設時	8-5-4-9	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候、気温	・品質規格、運搬時間、打設順序、天候及び気温について把握する。	段階確認書	把握	一般：1回/1構造物 重要：1回/1ロット	
プレストレスト導入時、横締作業時		・設計図書との対比	・プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する ・緊張管理計画書 ①引張装置のキャリブレーション結果 ②P C鋼材のプレストレスの管理に用いる摩擦係数		確認	一般：5%程度 ／総ケーブル数 重点：10%程度 ／総ケーブル数	
プレストレスト導入時、縦締め作業時		・設計図書との対比	・プレストレス導入時に設計図書と対比し、作業状況を確認する ・緊張管理計画書 ①引張装置のキャリブレーション結果 ②P C鋼材のプレストレスの管理に用いる摩擦係数 ③P C鋼材の見かけのヤング係数 ・プレストレス時のコンクリートの圧縮強度、緊張力		確認	一般：10%程度 ／総ケーブル数 重点：20%程度 ／総ケーブル数	
PC 鋼線・鉄筋組立完了時（工場製作を除く）		・使用材料、設計図書との対比	・材料確認（品質・規格）を受けた材料を適切に使用しているか確認する。 ・鉄筋の径、長さ、本数、有効高さ、間隔、継手方法（継手長結束状況）、かぶり及び床版厚について現地で確認する。	段階確認書	確認	1回/1構造物 1-3-7-4 参照のこと	

第5節 プレビーム桁橋工 8-5-5-2 : プレビーム桁製作工（現場）

第6節 PCホロースラブ橋工 8-5-6-4 : PCホロースラブ製作工

第7節 R Cホロースラブ橋工 8-5-7-4 : R C場所打ホロースラブ製作工

第 8 節 PC 版桁橋工 8-5-8-2 : PC 版桁製作工

第 9 節 PC 箱桁橋工 8-5-9-4 : PC 箱桁製作工

第 10 節 PC 片持箱桁橋工 8-5-10-2 : PC 片持箱桁製作工

第 11 節 PC 押出し箱桁橋工 8-5-11-2 : PC 押出し箱桁製作工

8-5-3-2に同じ

第6章 トンネル (NATM)

トンネル全般

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
		・ 施工状況	・ 監督職員は、設計図書及び施工計画書と現地を対比し、掘削方法、支保工施工方法（吹付、ロックボルト、鋼製支保工）、覆工、インバート工の全般について施工状況を把握する。		把握	1 回／支保工変更毎	

第3節 トンネル掘削工

8-6-3-2 : 掘削工

1-2-3-2 に同じ

第4節 支保工

8-6-4-3 : 吹付工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
支保工完了時（支保工変更時）	8-6-4-3	・吹き付けコンクリート厚	・金属の重ね合わせ寸法、吹き付けコンクリートの厚さが規格値以内か確認する。	段階確認書	確認	1回／支保工変更毎	

8-6-4-4 ： ロックボルト工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
支保工完了時（支保工変更時）	8-6-4-4	・ロックボルト打ち込み本数及び長さ	・ロックボルト打ち込み本数及び長さを確認する。	段階確認書	確認	1回／支保工変更毎	

第5節 覆 工

8-6-5-3 ： 覆工コンクリート工

8-6-5-4 ： 側壁コンクリート工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
施工時（構造の変化時）	8-6-5-3～4	設計図書との対比	・設計図書と現地で対比し規格値以内か確認する。 必須測定項目（必ず測定又は確認） ・基準準高（拱頂）、幅（全幅）、高さ（内法）厚さ（トンネル中心線、S.L上） 任意測定項目（工事目的物に応じ測定又は確認） ・その他厚さ、図面の寸法表示箇所	段階確認書	確認	1回／構造の変化毎	

第6節 インバート工

8-6-6-4 ： インバート本体工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提出書類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
鉄筋組立て完了時	8-6-6-4	・設計図書との対比	・鉄筋組立完了時に継ぎ手構造、ピッチ、かぶり及び品質について現地で設計図書と対比し確認する。	段階確認書	確認	1回／構造の変化毎 1-3-7-4参照のこと	

第8章 コンクリートシェッド

第3節 プレキャストシェッド下部工

8-8-3-6 ： 受台工 4－1－6－3に同じ

第4節 プレキャストシェッド上部工

8-8-4-6 ： 横締め工 8－5－4－9に同じ

8-8-4-7 ： 防水工 3－2－6－5に同じ

第5節 R Cシェッド工

8-8-5-6 ： 躯体工 4－1－6－3に同じ

第9章 鋼製シェッド

第4節 鋼製シェッド下部工

8-9-4-6 ： 受台工 4－1－6－3に同じ

第5節 鋼製シェッド上部工

8-9-5-4 ： 現場継手工

8-9-5-5 ： 現場塗装工 4－4－8－2に同じ

8-9-5-7 ： 防水工 3－2－6－5に同じ

第13章 電線共同溝

第5節 電線共同溝工

8-13-5-4 ： 現場打ボックス工（特殊部） 4－1－6－3に同じ 【必須測定項目：基準高、内空幅、内空高、ブロック長
任意測定項目：厚さ、その他図面の寸法表示箇所】

第 15 章 道路維持

第 4 節 舗装工

8-15-4-7 ： 路上再生工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
舗装時	8-15-4-7	・使用材料、敷均し、締固め状況、天候、気温、舗装温度等	・使用材料は品質、形状、寸法、使用方法を目視で把握する。 ・セメント及びアスファルト乳剤の使用状況を把握する。 ・一層の仕上り厚、並びに仕様書に定められた機械で施工しているか把握する。 ・一軸圧縮強度、締固め密度を把握する。		把握	一般：1回／1工事 重点：1回／3000㎡	

8-15-4-7 ： 路上再生工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
舗装時	8-15-4-7	・使用材料、敷均し、締固め状況、天候、気温、舗装温度等	・既設表層混合物の品質により、添加材料の使用量等、混合物の配合を把握する。 ・舗装時には、第 3 編 2－6－5 アスファルト舗装工による。		把握	一般：1回／1工事 重点：1回／3000㎡	

8-15-4-10 ： アスファルト舗装補修工 3－2－6－5に同じ

第 20 節 植栽維持工

8-15-20-3 ： 樹木・芝生管理工

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
施工時	8-15-20-3	・使用材料、施工状況	・肥料の種類、施肥の方法について把握する。		把握	1 回／ 1 工事	

第 17 章 道路修繕

第 4 節 舗装工

8-17-4-4 ： 舗装打換え工

8-17-4-6 ： オーバーレイ工 3－2－6－5に同じ

第 17 節 橋梁床版工

8-17-17-1 ： 一般事項 橋梁耐震補強（アンカーボルト）

施工段階	仕様書との関係	内 容		提 出 書 類	監 督		備 考
		項 目	留 意 事 項		方法	頻 度	
施工前	8-17-17-1	・既設構造物の配筋状況	・監督員は鉄筋探査器等により調査した配筋状況報告を確認する。	段階確認書	確認	1 回/ 1 構造物	
削孔後		・削孔長	・監督員は削孔毎に定規により削孔長を確認する。	段階確認書	確認	一般:30% 重点:60%	
定着後		・定着長	・監督員は削孔毎に超音波探傷器により定着長を確認する。	段階確認書	確認	一般:30% 重点:60%	

第 9 編 公園緑地編

第 1 章 総則

第 4 節 敷地造成工

9-1-4-4	：	掘削工	1－2－3－2 に同じ
9-1-4-5	：	盛土工	1－2－3－3 に同じ
9-1-4-6	：	路床盛土工	1－2－4－4 に同じ
9-1-4-9	：	路床安定処理工	3－2－7－2 に同じ

第 7 節 公園カルバート工

9-1-7-4	：	場所打函渠工	4－3－3－6 に同じ
---------	---	--------	-------------